

夏を見据えた勉強をしよう！

茗溪塾塾長 長谷誠基

6月に入り、鬱陶しい季節がやってきました。雨や曇りの日が多く、何となく気分がのらないなあ。なんて考えてしまいそうです。

しかし、学習面では6月は実は重要な時期と言えるので注意して過ごしましょう！

6月は中学生にとっては定期試験がある学校が多いと思います。定期試験は内申を決める大きな要素になっていますので、できるだけ高得点を目指すことが必要です。そのためには、①学校のワークをできるだけ早く終わらせる。②やり終えた学校のワークの間違った問題をもう一度解きなおす。③塾でもらったテキストやプリントで本当に理解できているかどうかチェックする。という流れをつくることです。悪いパターンは①が試験直前にやっと終わるといった状況です。これだと②に時間がかけられないため、結局きちんと理解しないまま試験に突入することになってしまい、高得点をとることは難しくなります。まず、学校のワークをいつまでに終わらせるかの計画を立てて進めましょう。また、定期試験には「知識・技能」の分野と「思考・判断・表現」の分野に分かれて出題されているので、それぞれでどのくらい得点できているかで、通知表の観点別の項目に何の評価がつくのかが変わります。学校のワークは少し難しめの問題まで必ず取り組んでおきましょう！

また、受験生にとってはまさに夏を見据えた勉強をする時期になります。というのは、できれば受験生の夏は、今までやった単元の総復習をしつつ、入試問題レベルへ実力を引き上げていく演習をプラスしていくことが必要になります。ここで、夏に入る前に少しでも弱点単元を減らしておくことができれば、入試問題レベルにかける時間が多くできることになります。すると、9月以降に過去問を解いていったりや模擬試験に取り組むときにもアドバンテージをもって臨むことができるようになります。ですから、この6月・7月の前半に復習の勉強を少しずつでいいので取り組んでいきましょう。小6生であれば、四谷大塚コースは四科のまとめを解く時間を少し多めに入れたり、公立一貫校受検コースであれば、理科・社会・国語の基本知識をテキストで復習したり、中3生や高3生で定期試験までまだ時間があれば、英単語や熟語暗記に時間をかけたり、古典文法を確認したり、後に回さずにやれることは実はたくさんあるはずなのです。

鬱陶しい時期ですが、「やる気が出ないなあ…。」なんて発言は禁物です。この発言は自分の弱さを自分で正当化しているだけです。弱音を吐かずにやれることをコツコツと進めていきましょう！